

世界に奉仕する基準と機構

畠山 襄 *Noboru Hatakeyama*

(一財) 国際貿易投資研究所 理事長

現在、世界の安全保障は二つの機構に担われている。一つは国連（国際連合）である。安全保障理事会（安保理）と経済社会理事会がその中心だ。二つ目は先進国首脳会議G7（G8）である。

安保理は、米・英・仏・中・露に常任理事国として拒否権が与えられ、他の国には非常任理事国として順番で役割が与えられる。

G7は1975年に時のフランス大統領ジスカール・デスタンの呼びかけに応じて創設されたもので、1973年に作られたサウジアラビアなど中東諸国を中核とする石油カルテルに対抗するものであった。石油の消費国の世界ランキング上位6カ国（米・日・西独・仏・英・伊）がメンバーだが、これはGDPの世界ランキング上位6カ国と一致していた。1976年からカナダが加わりG7となったが、同国はGDPの世界ランキング第7位であり、それは1991年まで続いた。

しかし、90年代に入るとそうはいかなくなってきた。主因は中国の目を見張るような発展である。こうして200カ国余りある国の中から、どういう基準でどういう国を選べばよいのか分からない、という問題が生じてきた。

（どういふ基準か）

一つはGDPの大きさだ。ただ、同じGDPの大きさといっても、名目が実質か、の問題がある。

(どういう国か)

筆者はOECDの会議に出席したことがあるが、20数カ国が出席しており、これらが順番に発言するとそれだけで時間を費やしてしまい、実質的な議論ができない。効率的な議論のためには最大限10カ国、すなわち「G10」が限界だと思われる。

この際、「G10」を確定することは極めて困難である。そこで、「暫定的幹事国」のようなものとしたらいかがであろうか。そして、暫定的幹事国は毎年見直すよいだろう。

議論の材料に供するために、敢えて次の表を掲げる。

市場為替相場による GDP ランキング (2016 年価格)

(単位：10 億ドル)

順位	2016 年 ランキング		2030 年 ランキング		2050 年 ランキング	
	国	GDP	国	GDP	国	GDP
1	米国	18,562	中国	26,499	中国	49,853
2	中国	11,392	米国	23,475	米国	34,102
3	日本	4,730	インド	7,841	インド	28,021
4	ドイツ	3,495	日本	5,468	インドネシア	7,275
5	英国	2,650	ドイツ	4,347	日本	6,779
6	フランス	2,488	英国	3,530	ブラジル	6,532
7	インド	2,251	フランス	3,186	ドイツ	6,138
8	イタリア	1,852	ブラジル	2,969	メキシコ	5,563
9	ブラジル	1,770	インドネシア	2,449	英国	5,369
10	カナダ	1,532	イタリア	2,278	ロシア	5,127

資料：ブライスウォーターハウスコーパース (PwC) "The Long View: How will the global economic order change by 2050?"より (2017年2月刊行)

この表で2016、2030、2050年のいずれにもランクインしているのが、米国・日本・中国・ドイツ・英国・インド・ブラジルの7カ国である。そして、三つのうち二つの表にランクインしているのが、イタリアとインドネシア、そしてG6提唱国のフランスである。これで7カ国+3カ国のG10としてはいかがであろうか。